

# 新型コロナウイルス感染症の 県内発生について

～第4波を中心として～

## その7

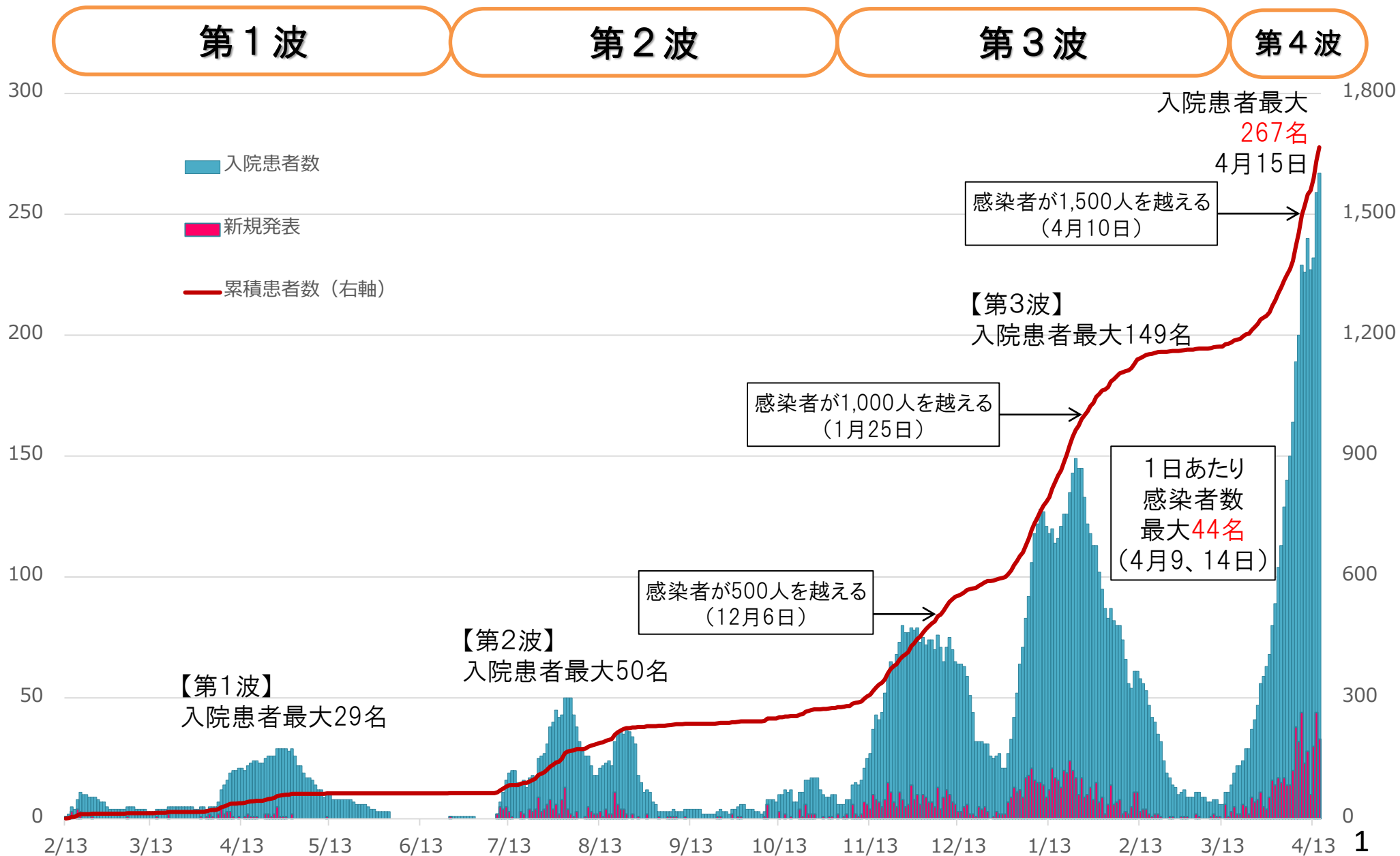
和歌山県福祉保健部技監 野尻 孝子

2021年4月16日

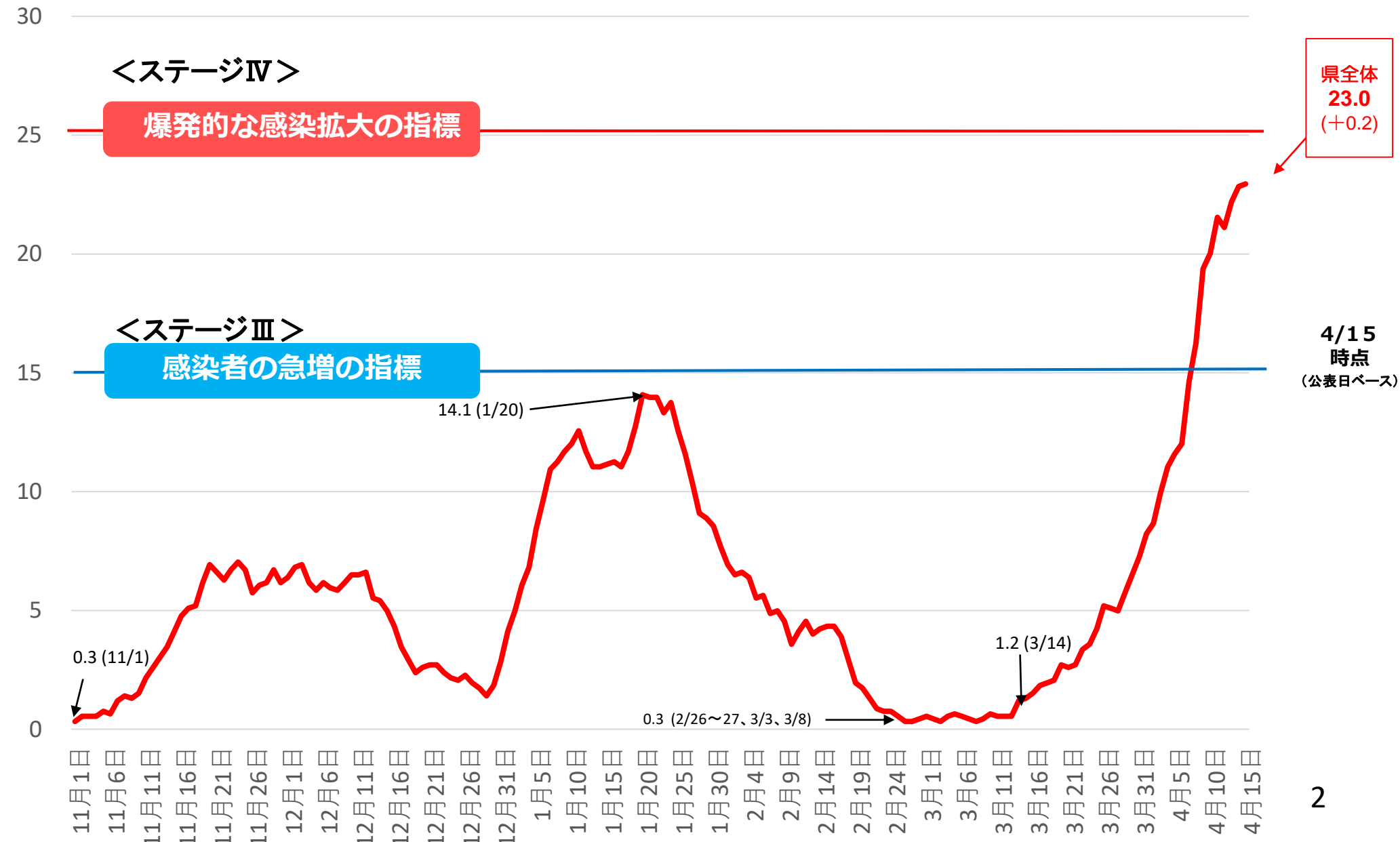


# 和歌山県内の新型コロナウイルス感染症 感染動向の推移

令和3年4月15日  
発表分まで



# 県内の感染者数の推移（1週間・人口10万人あたり）

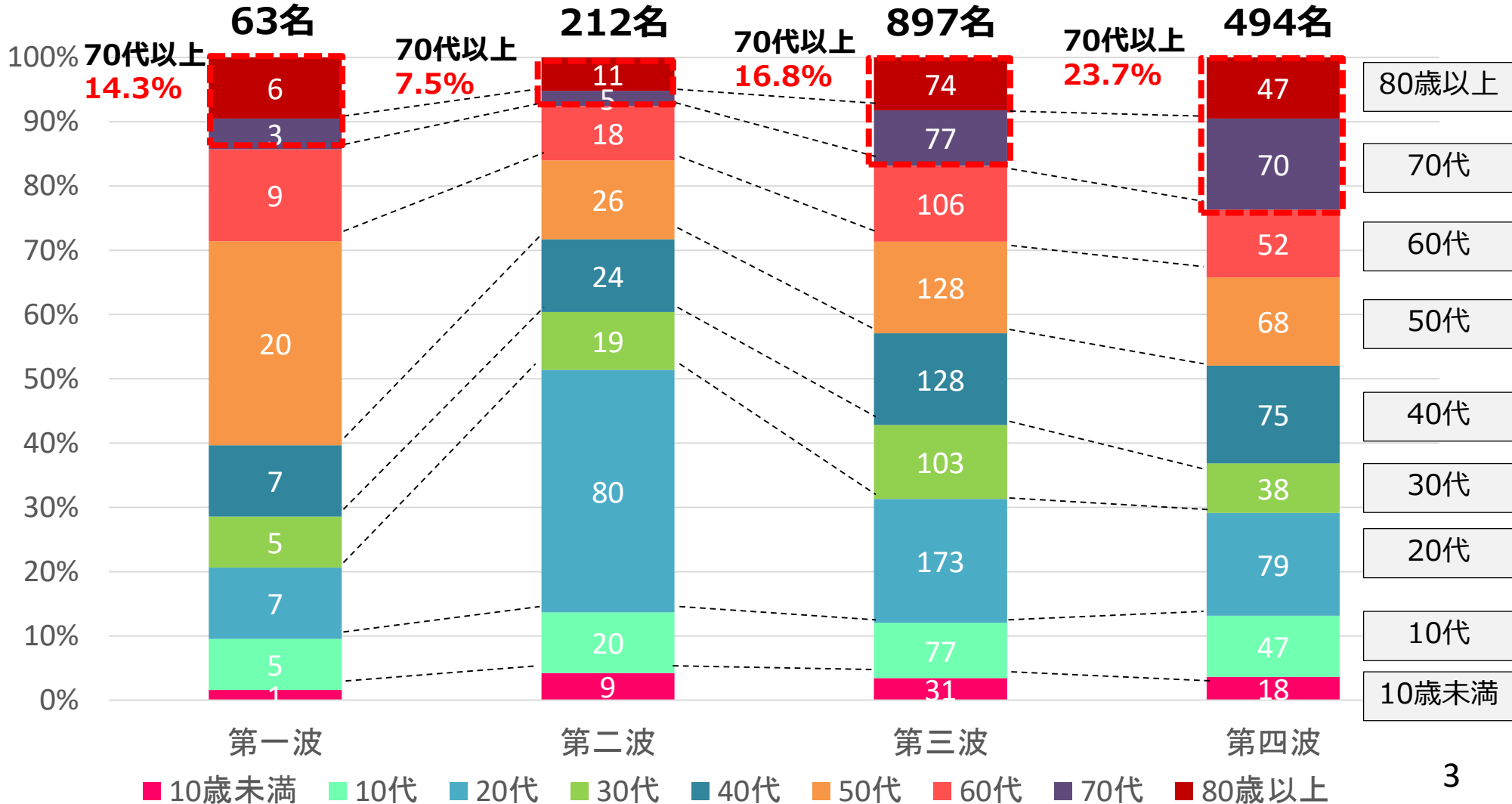


# 県内の年齢別感染者数

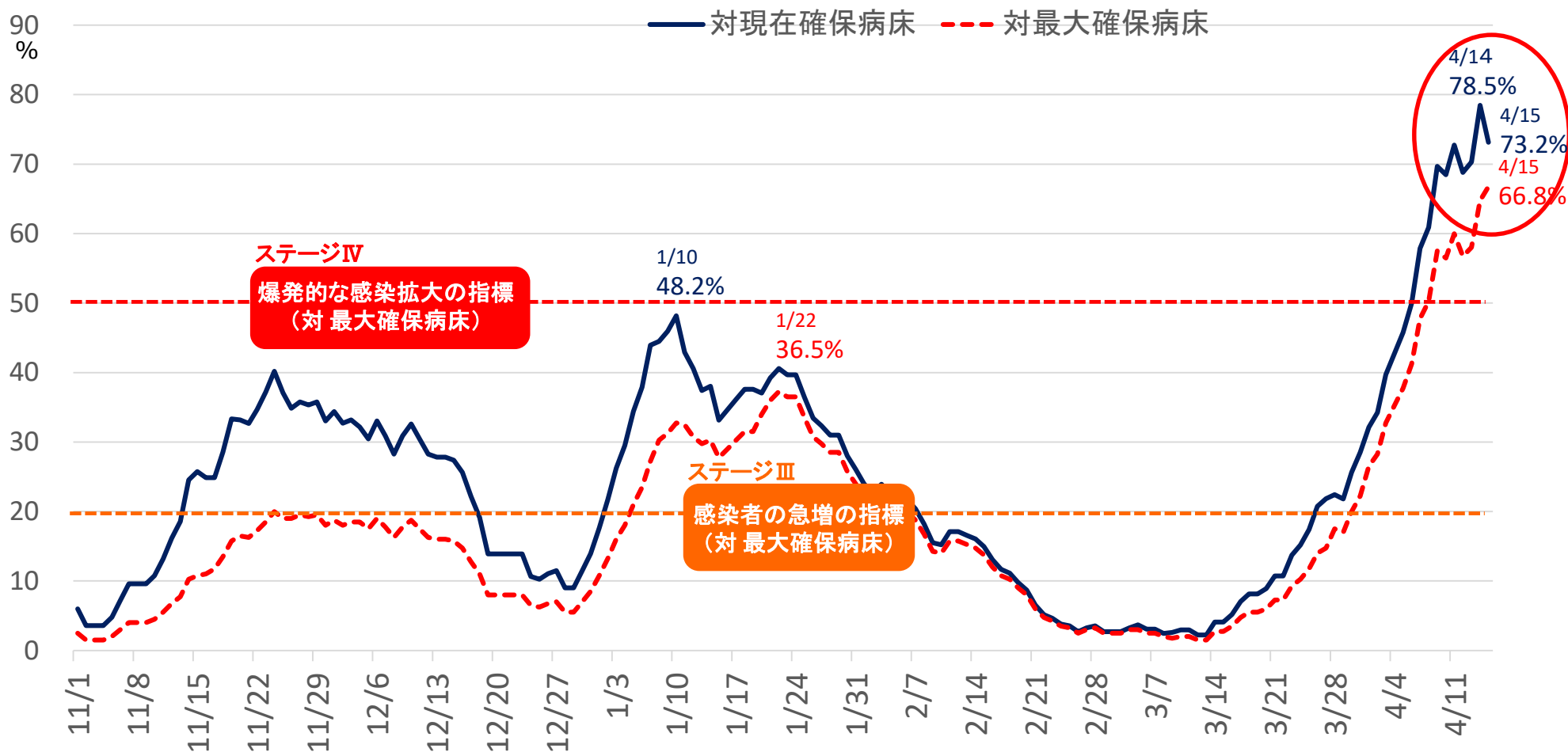
(令和3年4月15日発表分まで)

1,666名

- 第一波では感染者の年代は50・60代が中心であったが、第二波では、20代以下の若者が中心となった。
- 第三波では、全年齢に感染が広がったが、特に高齢者と小児の患者数が増加している。
- 令和3年3月14日から始まった第四波においても、各年代に感染が広がるとともに、高齢者の割合が高くなっている。



# 病床利用率の推移



**ステージⅣ**  
爆発的な感染拡大の指標  
(対最大確保病床)

**ステージⅢ**  
感染者の急増の指標  
(対最大確保病床)

確保病床数

150床      200床      230床      272床      330床      270床      330床 365床

※最大確保病床は400床として計算

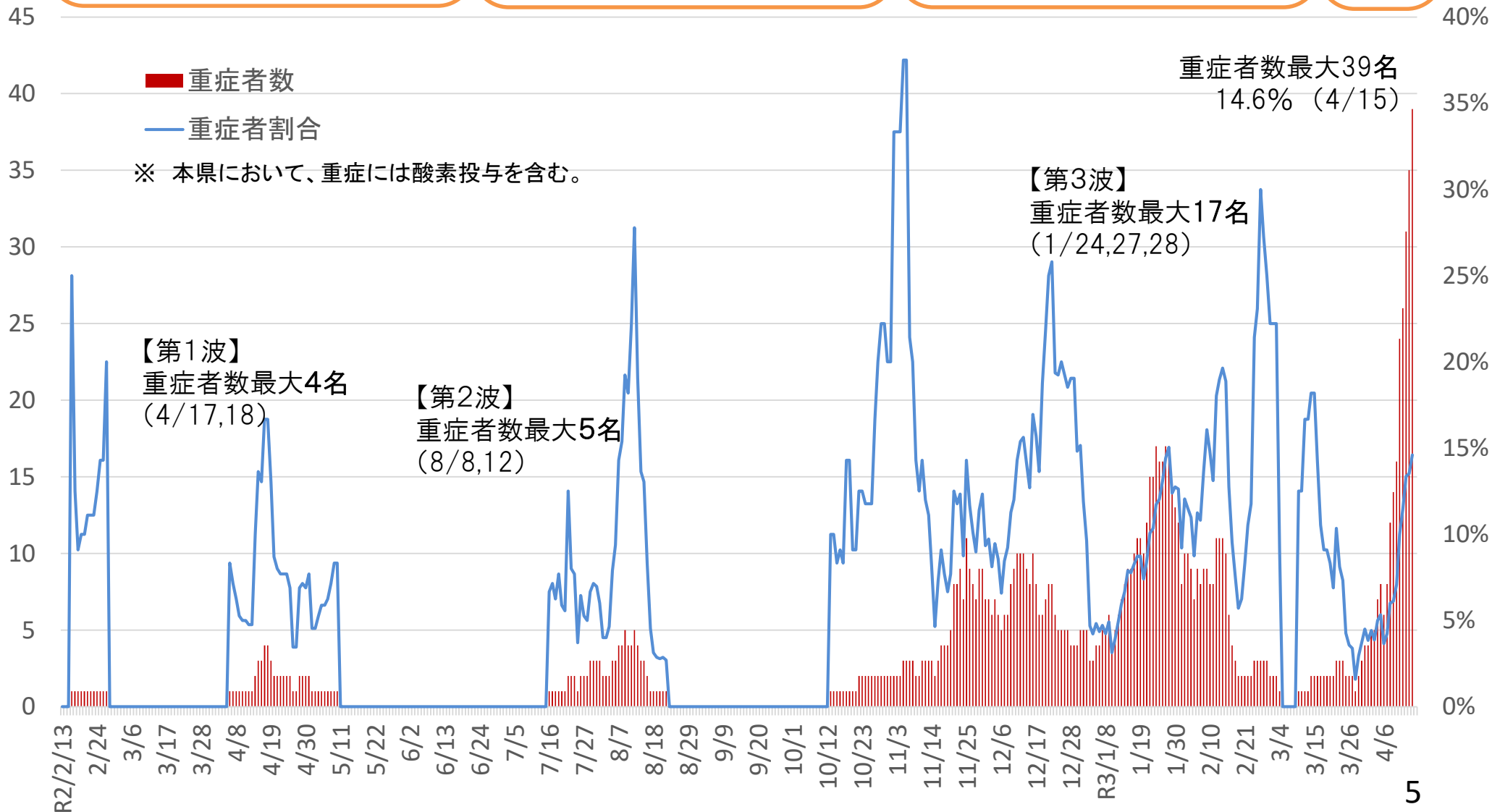
# 本県の酸素投与の必要な重症者数及び重症者割合の推移 令和3年4月15日現在

第1波

第2波

第3波

第4波

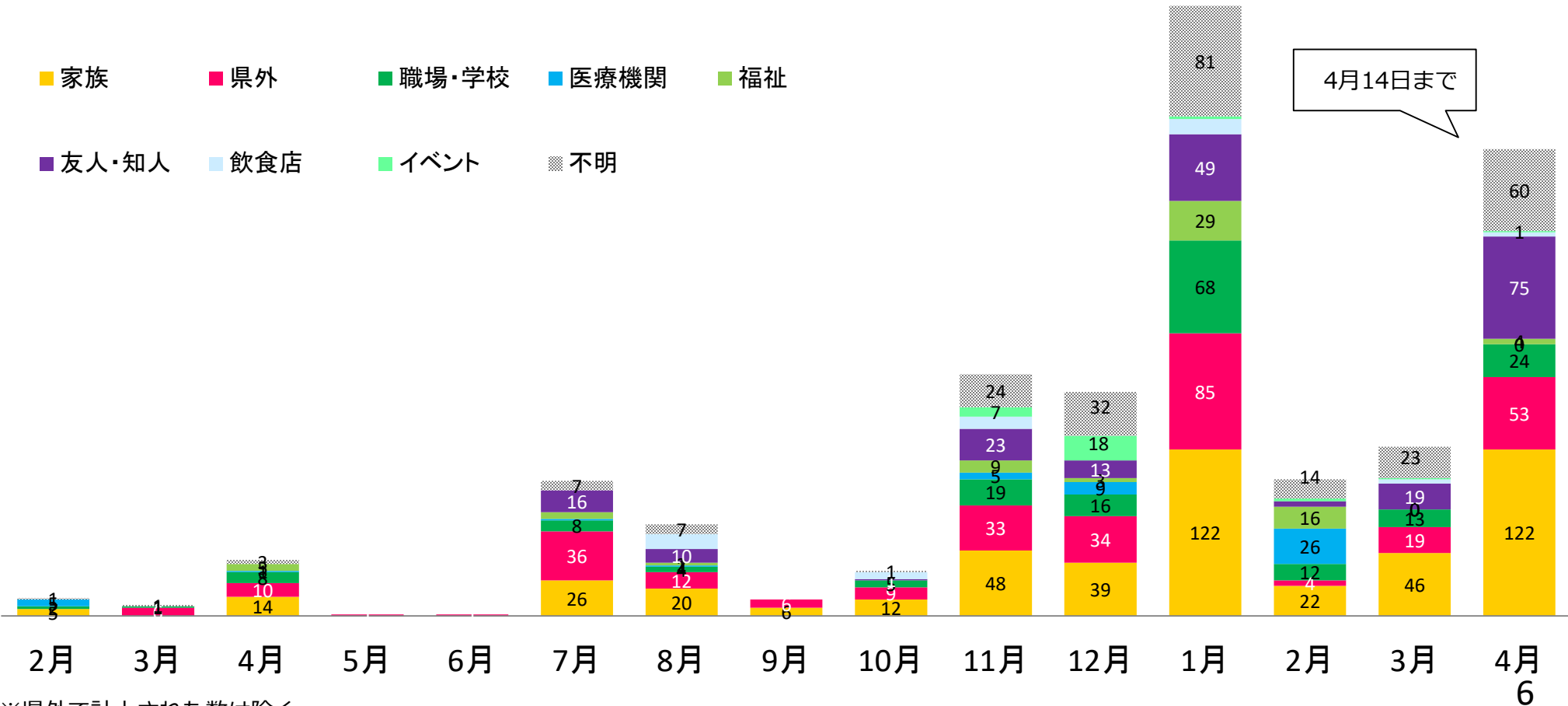


# 感染者の感染経路 (4月14日現在)

- 本県では、第一波の2月に院内感染で始まり、3月から県外の持ち込みが多くなり、第二波の7月は県外からの持ち込みが最多となった。
- 第三波の始まった11月以降では、家族内感染や県外からの持ち込み、友人間感染が多い。ただ、感染経路不明数が増加している。
- 帰省等の影響により、1月に感染者数が急増し、感染経路は家族内感染、次いで県外からの持ち込みが多かった。
- 第四波が始まった3月14日から4月14日までの感染経路では、家族内感染、次いで友人・知人間感染が多かった。

■ 家族      ■ 県外      ■ 職場・学校      ■ 医療機関      ■ 福祉  
■ 友人・知人      ■ 飲食店      ■ イベント      ■ 不明

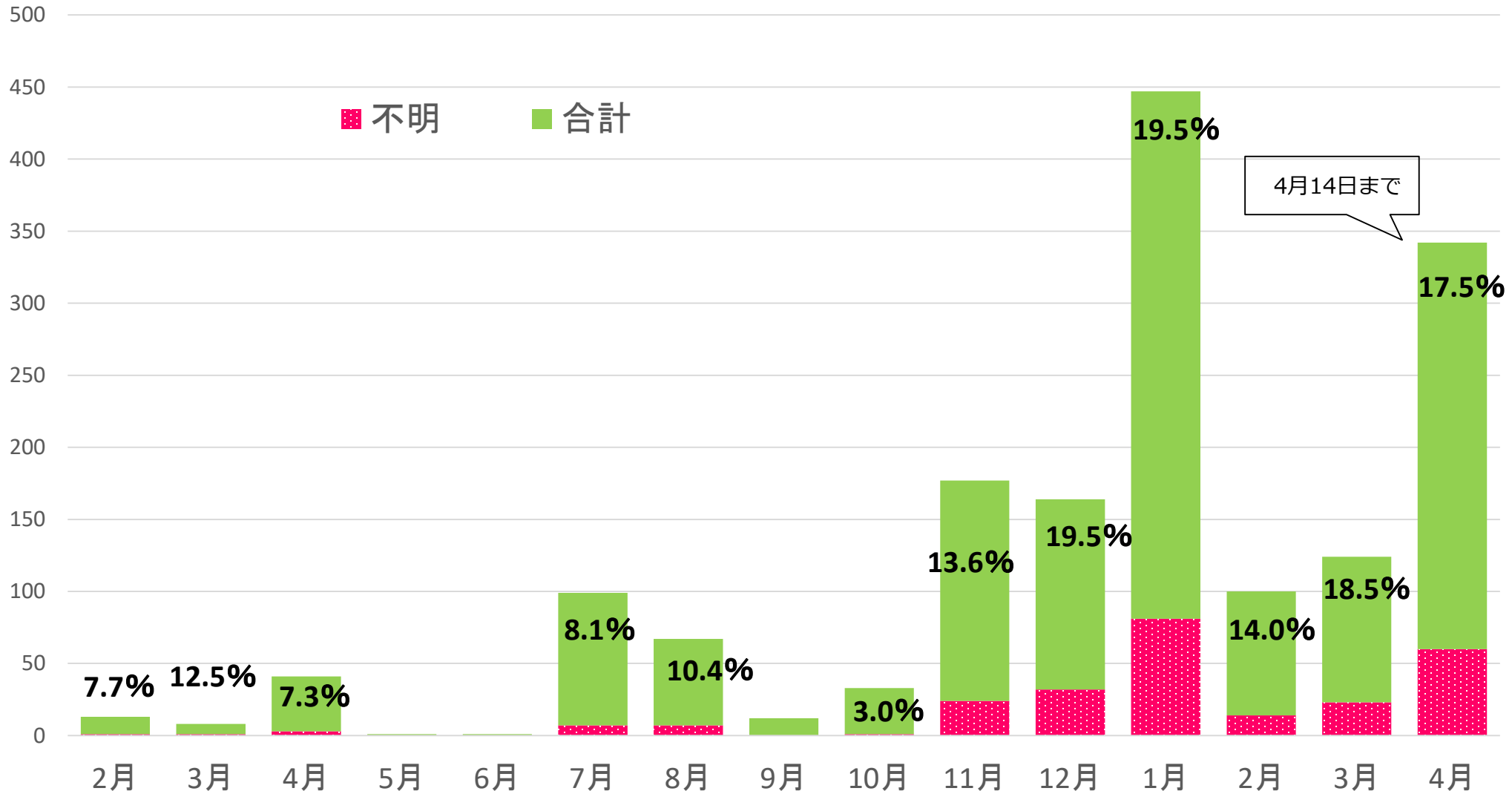
4月14日まで



※県外で計上された数は除く

# 感染経路（原因不明の割合） （4月14日現在）

○ 第三波の始まった11月以降から、徐々に感染経路不明の割合が高くなっている。感染者が急増すると感染経路不明の割合は高くなる傾向である。

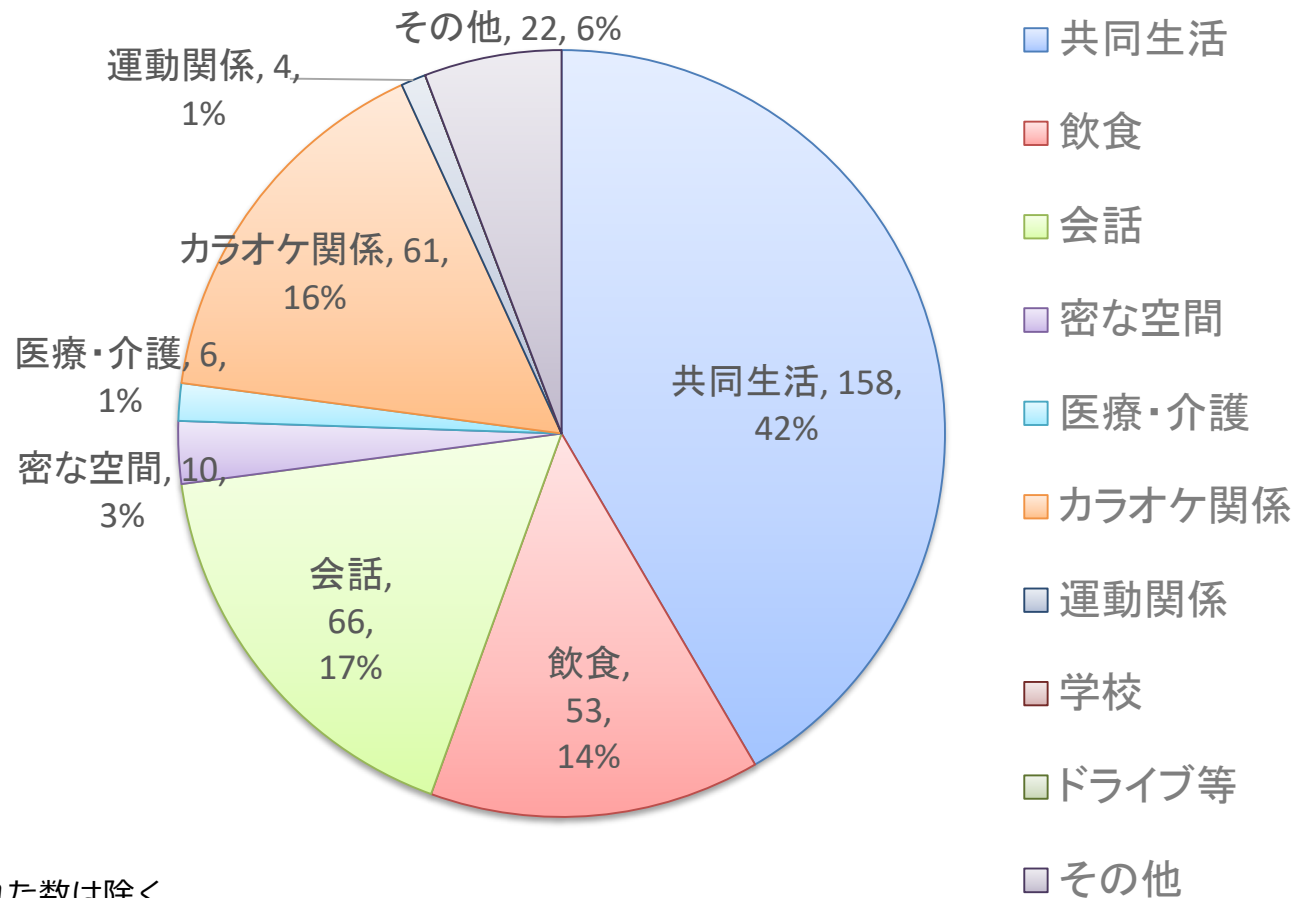


※県外で計上された数は除く



# 感染者の推定される感染機会 (3/14~4/14公表分) n=380 (感染源不明を除く)

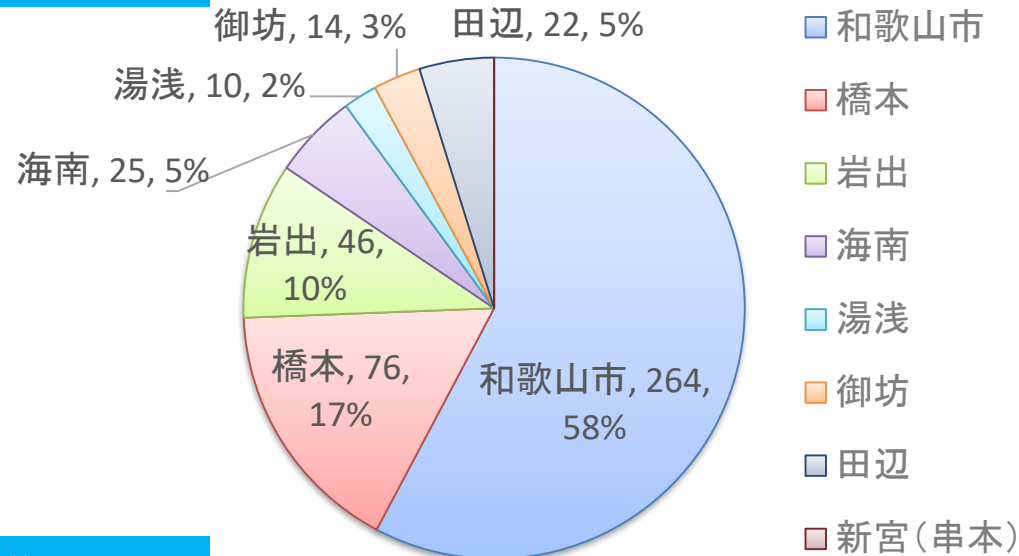
- 第四波が始まった3月14日から4月14日までの県内感染者のうち感染源不明等を除いて推定される感染の機会を見た。
- 家族等と同居生活をしている場合が最も多く、次いで会話、カラオケ関係、飲食と続いた。
- 従って、家族（同居）内での共有する空間・場所・物を介する感染予防と飲食時の感染予防に最も注意する必要がある。また、屋内でのマスク着用、ディスタンスの保持、換気が重要である。



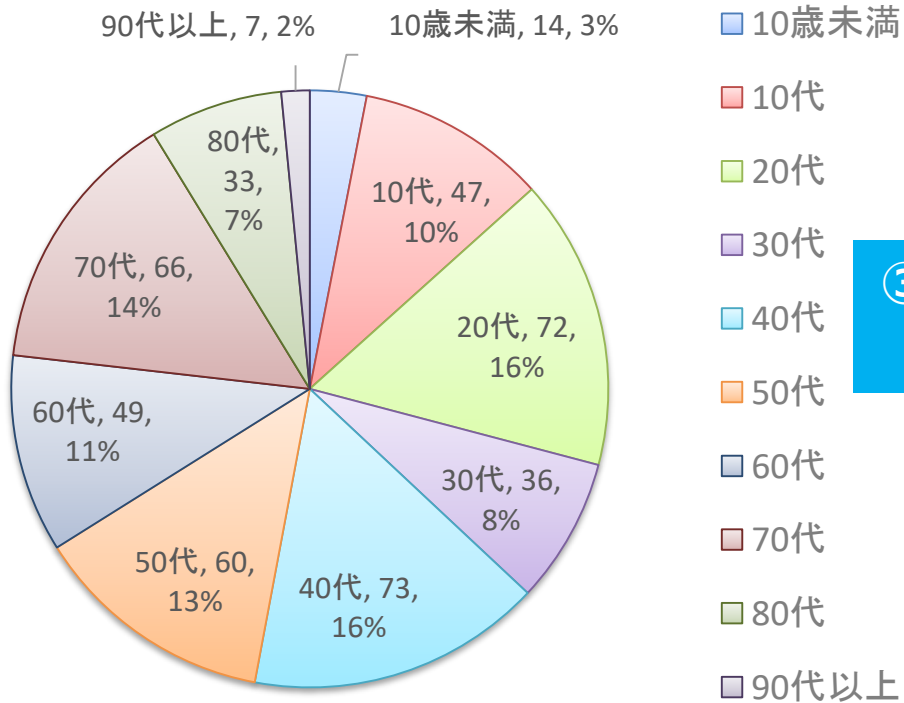
※県外で計上された数は除く

# 第4波の感染状況 (3/14~4/14公表分) n=457

## ② 保健所別

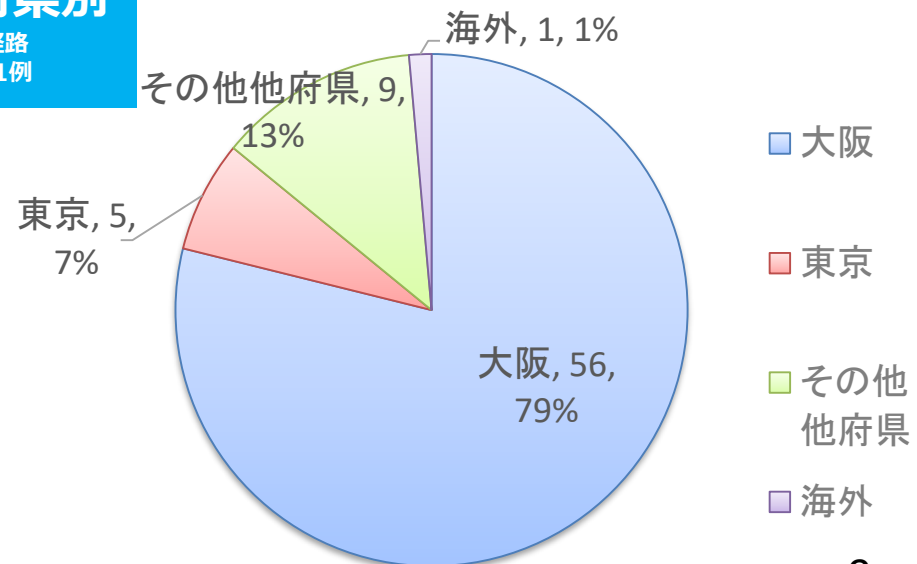


## ① 年代別



## ③ 都道府県別

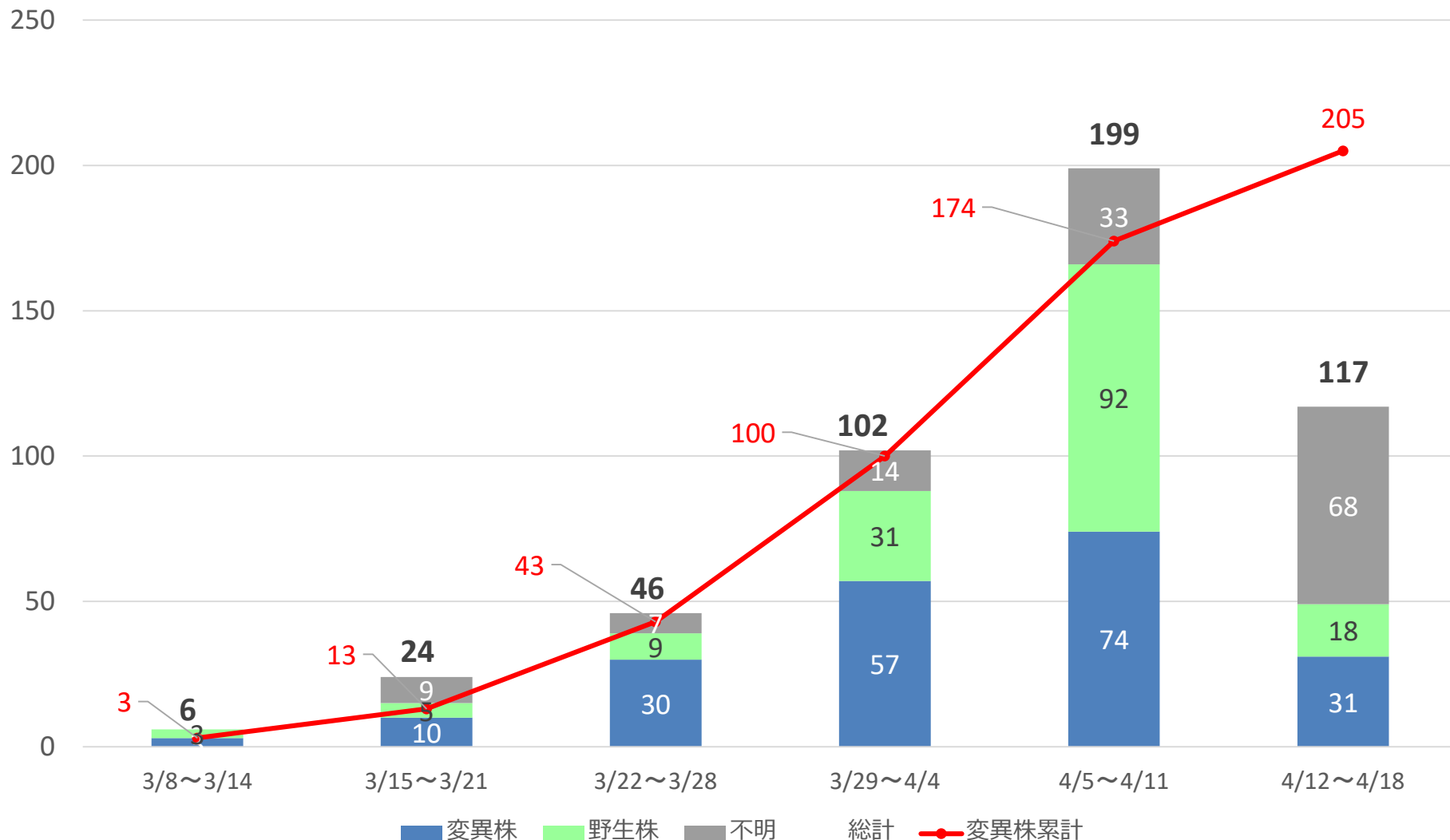
推定感染経路  
「県外」71例



※県外で計上された数は除く

# 新規陽性者数と変異株スクリーニング検査陽性者の割合（週次）

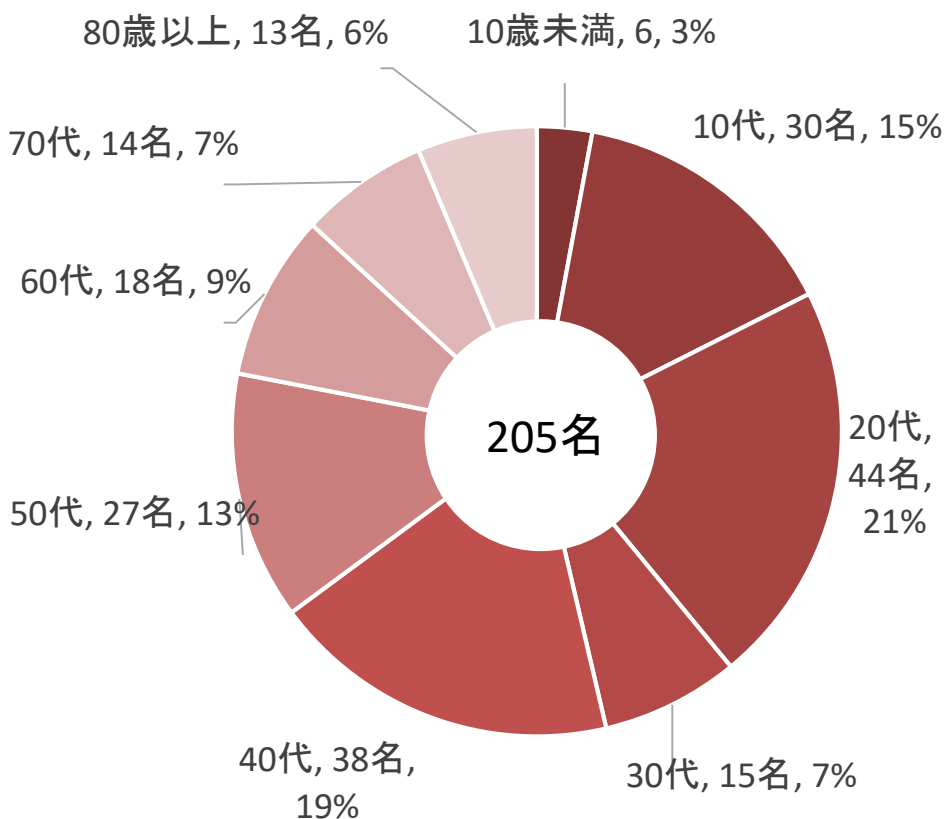
（令和3年4月15日発表分まで）



# 変異株と従来株の年齢構成の比較

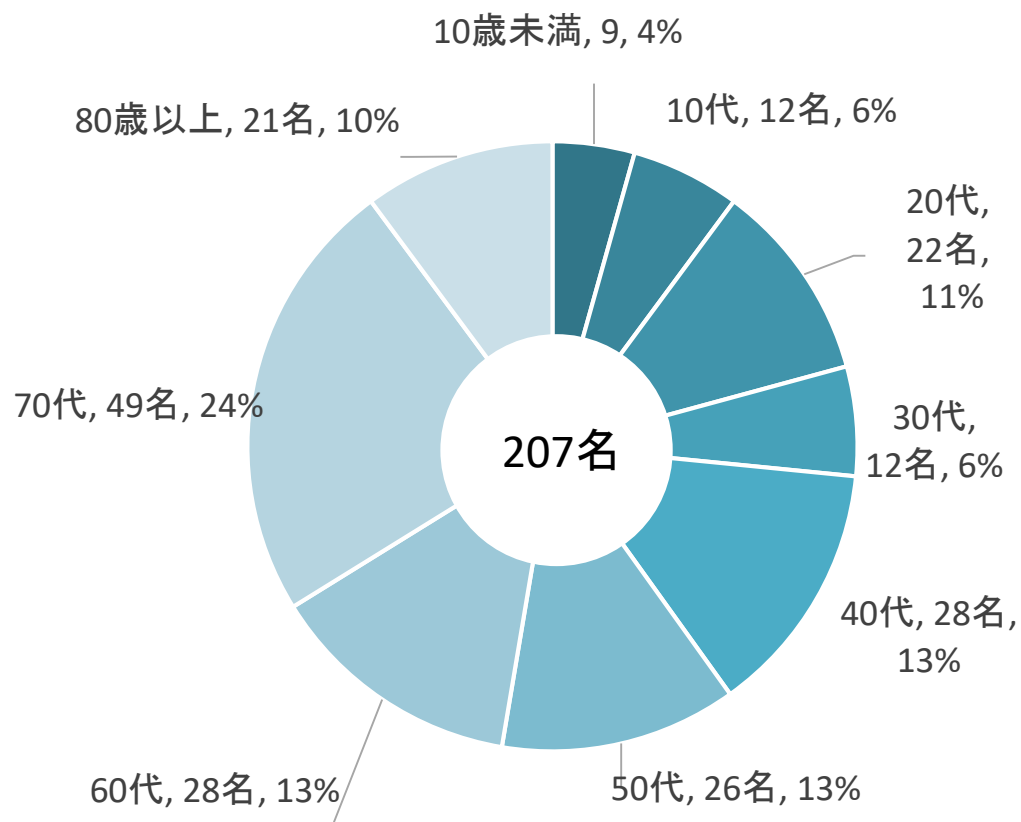
## ① 変異株

(4月14日までに発表した陽性者のうち、  
4月15日までに変異株スクリーニング検査で陽性となった  
**205名**の内訳)



## ② 従来株

(4月14日までに発表した陽性者のうち、  
4月15日までに変異株スクリーニング検査で  
従来株と判定された者158名及びその関連の陽性者で  
同様に従来株であると推定される者の合計**207名**の内訳)

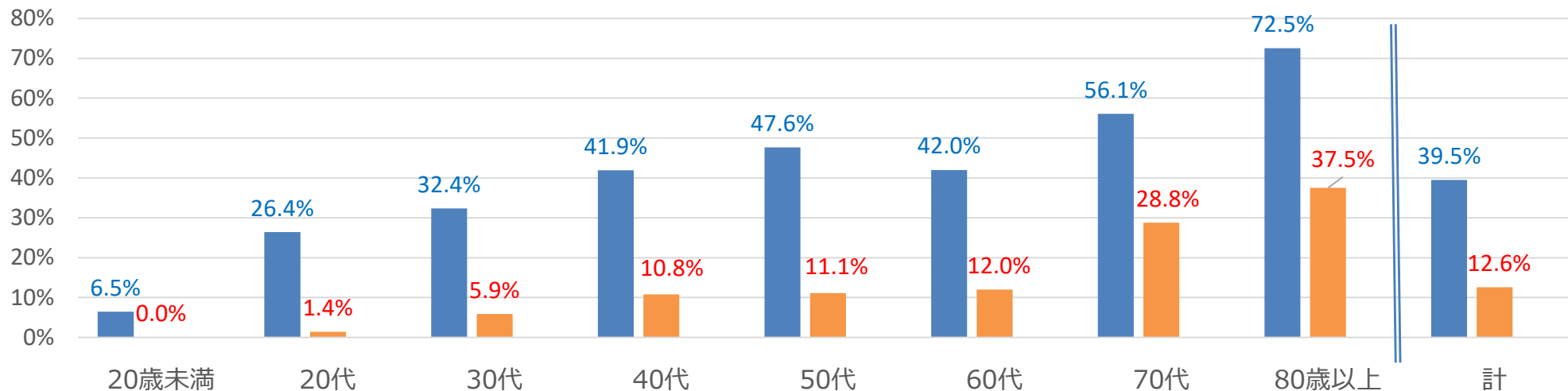


# 県内の年代別肺炎併発率等重症割合

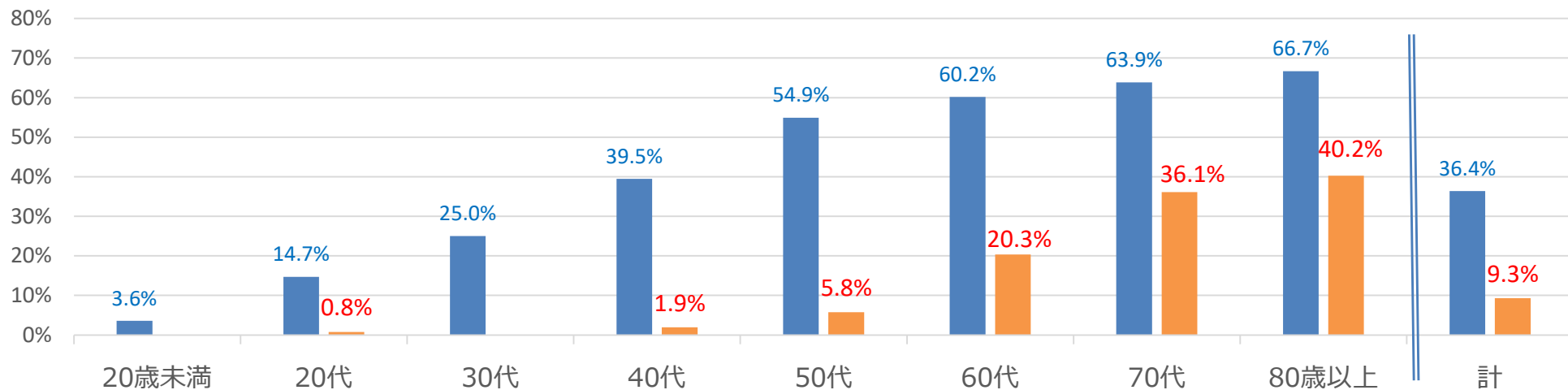
## ①第4波(令和3年3月14日～4月14日 n=461)

注)肺炎の確認された症例を分析、実際はこれ以上存在すると思われる

※3月14日～4月14日に発表した陽性者の、4月15日までの状況による。



## ①第1波～第3波の一部(令和2年2月13日～令和3年2月15日 n=1151)

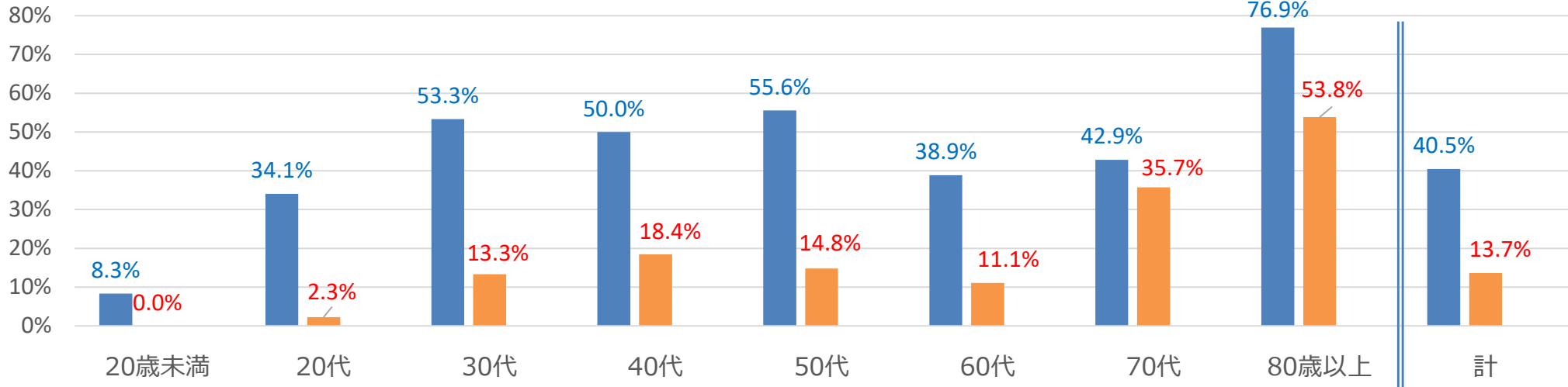


■ 肺炎罹患率 ■ 酸素投与率

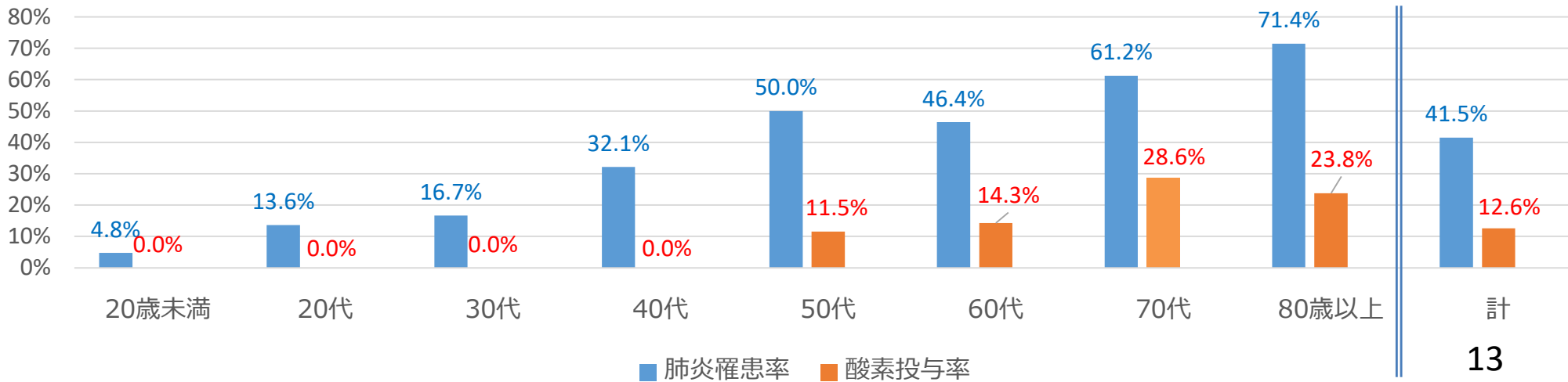
# 変異株と従来株の年代別肺炎併発率等割合の比較

注)肺炎の確認された症例を分析、実際はこれ以上存在すると思われる

## ① 変異株 (4月14日までに発表した陽性者のうち、4月15日までに変異株スクリーニング検査で陽性となった**205**名を対象)

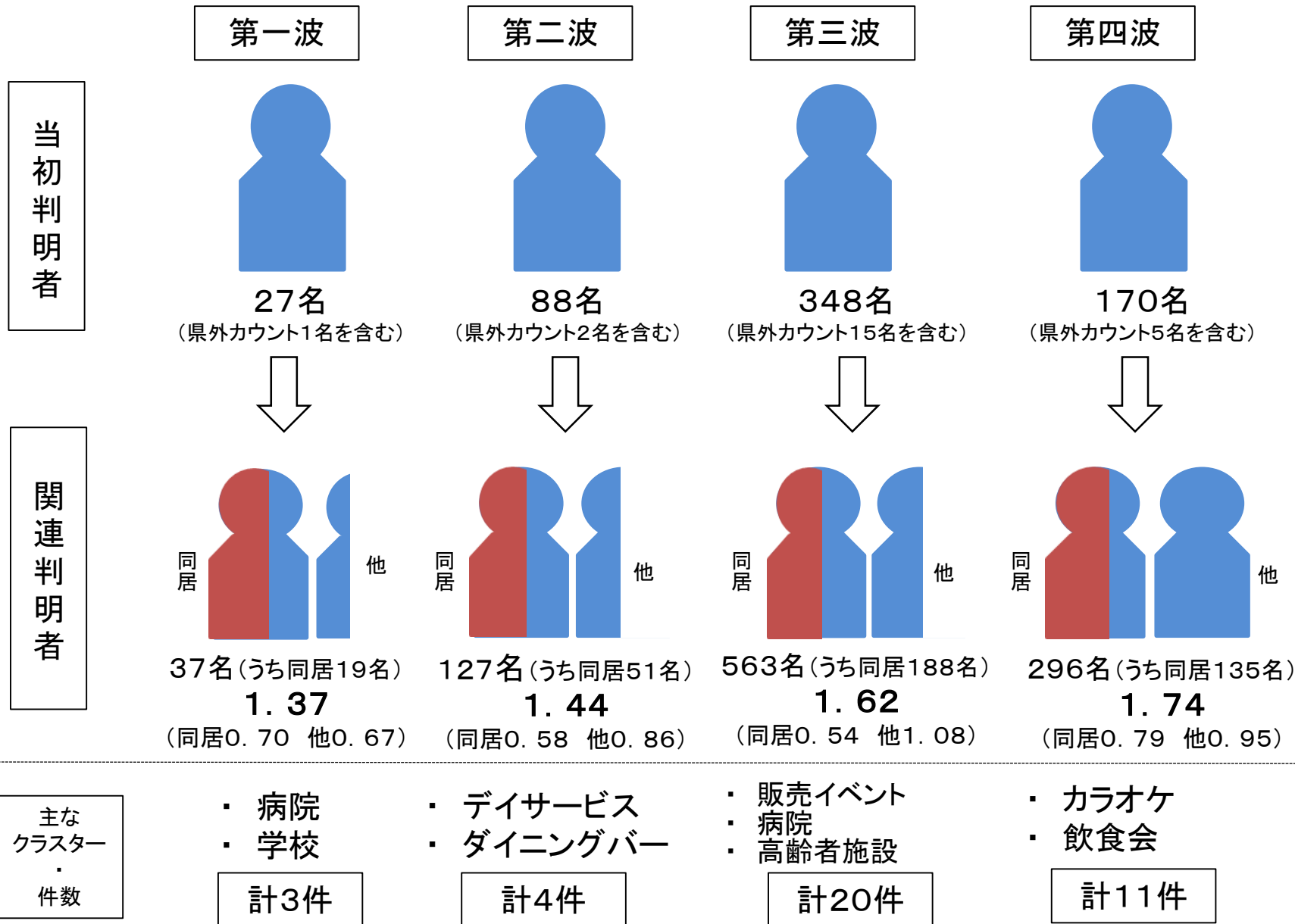


## ② 従来株 (4月14日までに発表した陽性者のうち、4月15日までに変異株スクリーニング検査で従来株と判定された者及びその関連の陽性者で同様に従来株であると推定される者の合計**207**名を対象)



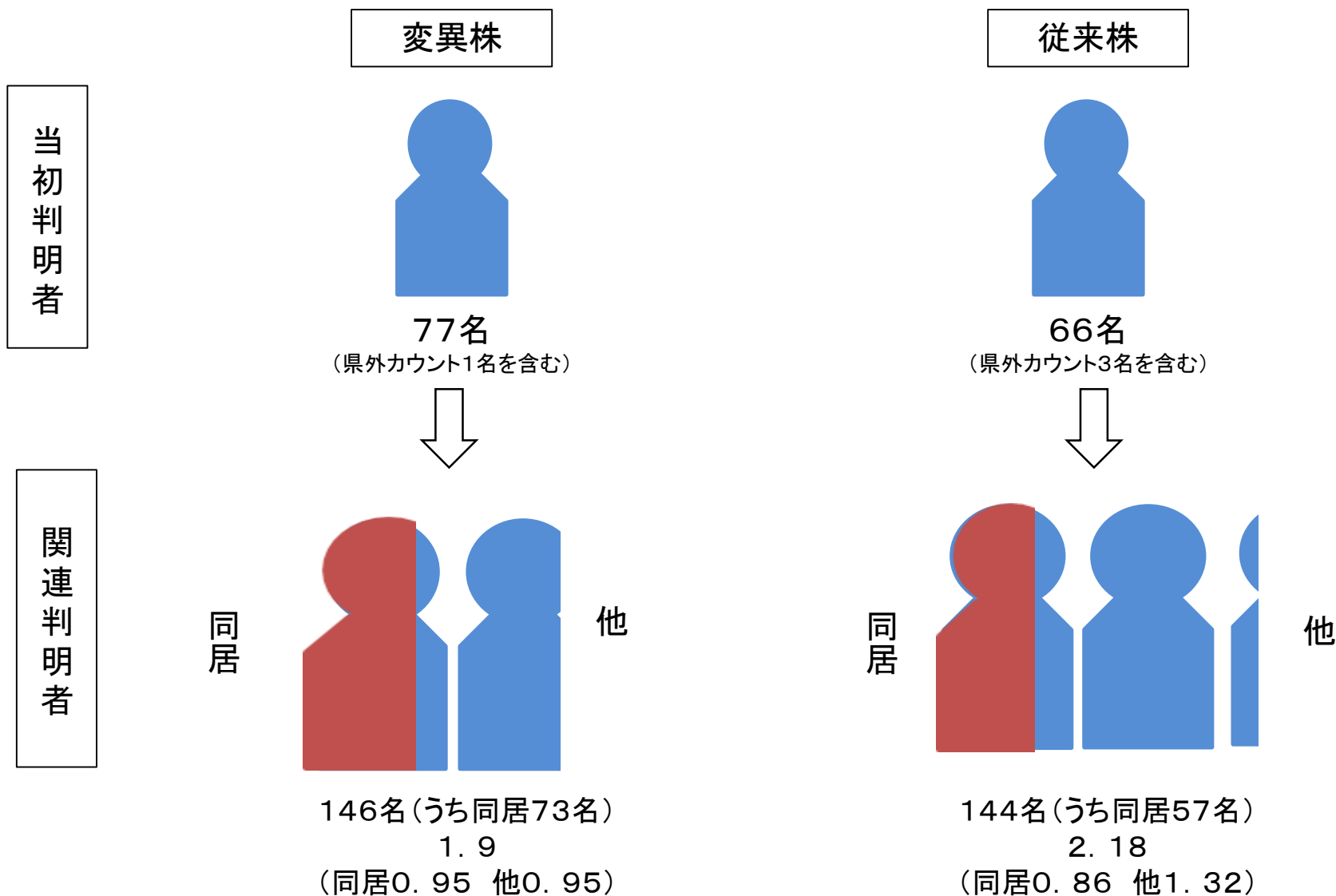
# 濃厚接触者等の感染状況

(令和3年4月14日時点)



# 濃厚接触者等の感染状況（変異株と従来株の比較）

（令和3年4月14日時点）

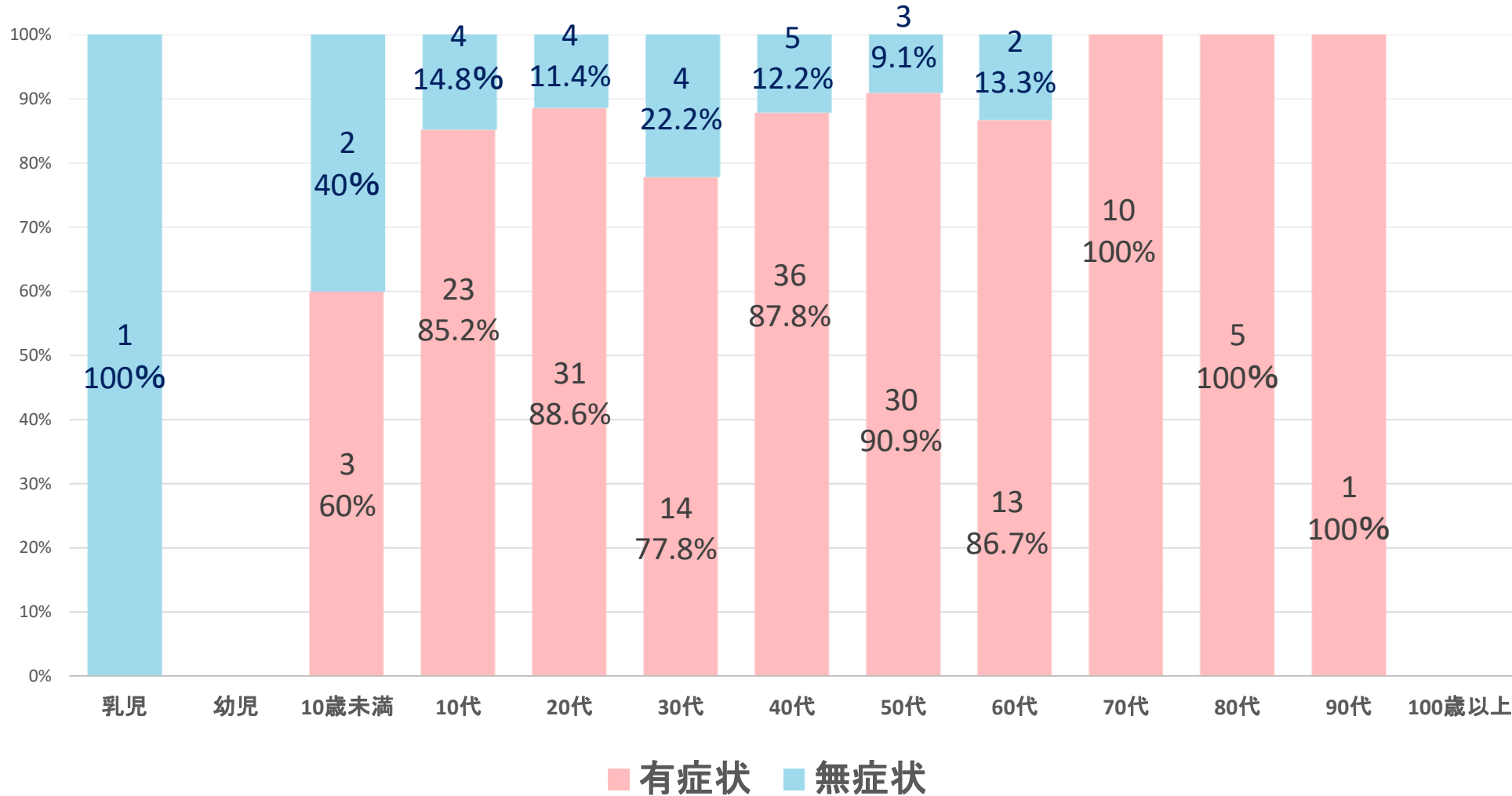


※4/14時点で変異株、従来株が判明しているものを対象

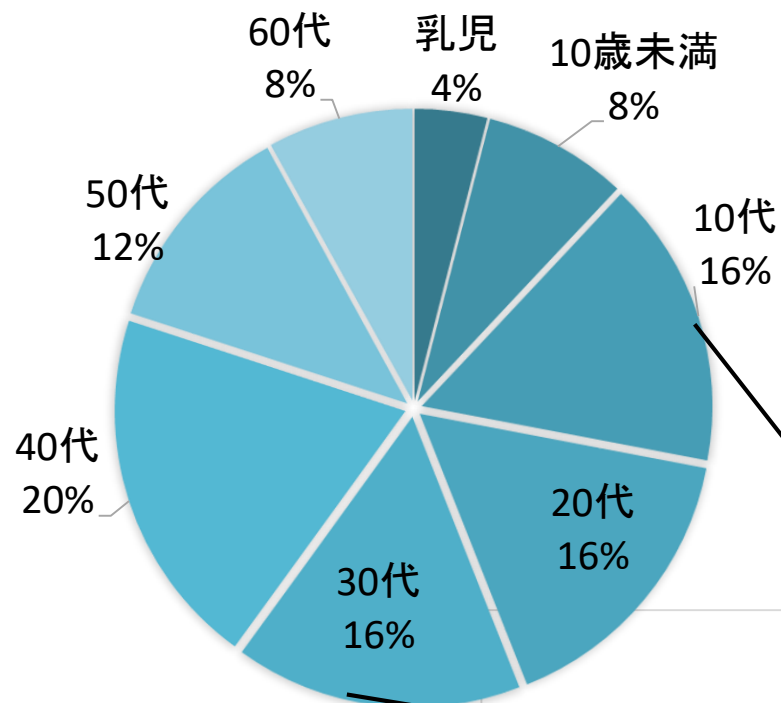


# 退院患者（R3.3.14~4.13）における症状別の年代人数と割合

N=191

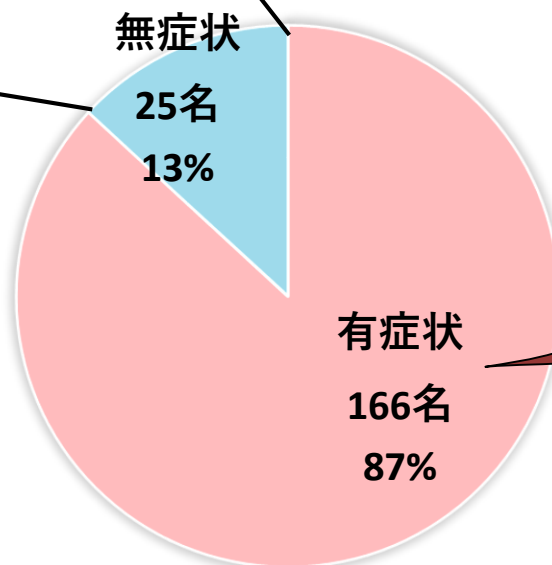


# 退院患者（R3.3.14~R3.4.13）の入院経過中の症状の有無の人数と割合



退院した患者191名中、

- ・入院経過中の有症状者は166名(87%)
- ・無症状者は25名(13%)であり、その年代は、40代以下が68%と多い。



入院当初は無症状だった者44名のうち、入院後に何らかの症状が発現した者は19名(43%)

# まとめ

- 令和3年3月14日から始まった本県の第四波は大阪を主とした県外への往来や交流により感染者が急増した。また、これとともに変異株の感染者が急増し、家族や接触者に感染が拡大した。
- 感染者の急増により病床使用率が高くなり、また酸素投与が必要な感染者も今まで以上に増加し、医療提供体制がかなり逼迫した状況となっている。
- 感染の機会としては、家族等の共同生活が最も多く、飲食や会話、カラオケによると考えられる事例が多い。また、感染経路不明も増加しており、市中での感染についても注意する必要がある。
- 変異株スクリーニング検査陽性者は3月14日に初めて確認後、増加しており、活動の活発な若い世代から家族や友人等に感染が拡大した。
- 変異株と従来株の年代別の肺炎併発率を見ると、変異株では20代、30代、40代の若い年代でも肺炎の併発率が高く、また酸素投与が必要な感染者が多いことから注意が必要である。
- 第四波ではこれまで以上に濃厚接触者等に二次感染がおこりやすくなっていることが推察される。ただし本県ではカラオケによると考えられる集団感染が発生したことから、変異株と従来株に二次感染等の人数の差は見られなかったが、同居家族では変異株の方が感染しやすいと推察される。
- 最近、1か月間に退院した感染者から見ると、若い世代は無症状で経過する人の割合が高いが、入院時、無症状でも入院後発症する者もいるため経過をみる必要がある。
- この難局を乗り切るためには、全ての人々が個々人の感染予防対策の徹底を行うとともに、集団感染をさせないことが極めて重要である。